

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = NZ中銀は連続利上げへ

2021年11月22日

NZ中銀(RBNZ)は前回10月6日の理事会で約7年ぶりの利上げを実施、政策金利を0.50%としました。同中銀は新型コロナウイルスのパンデミックを受けて、2020年3月に政策金利を同国としては過去最低水準となる0.25%に引き下げ、その後は同水準で据え置いてきました。

その後、NZ経済の回復が顕著となり、物価の上昇や、都市部を中心とした住宅価格の急騰が見られる中、今年7月に新型コロナ禍で実施した国債買入れ(量的緩和)について、停止を発表。市場は8月の理事会で利上げが実施されると見込んでいましたが、デルタ変異株による新型コロナの感染拡大が見られ、ロックダウンが実施されたことでいったん見送られていました。

10月の理事会では満を持しての利上げの実施に。事前見通しも利上げでほぼ一致していました。G10通貨としては9月のノルウェークローネに次いでの利上げとなりました。

政策金利の引き上げにあたってRBNZは声明を発表。物価の上昇への対応については、「物価を安定させ、持続可能で最大限な雇用をサポートするために、金融政策の引き締めが必要と判断した」と説明。住宅価格については、「住宅市場は持続不可能な水準にある。しかしこの引き締めによって不動産価格も抑制されることが見込まれる」としています。また、今後については「時間が経過するにつれて金融政策による刺激がさらに取り除かれると見込まれる」と、追加的な引き締めを示唆しました。

こうした状況に加え、先月18日に発表されたNZ第3四半期消費者物価指数が前年比+4.9%と、事前見通しの+4.2%、第2四半期の+3.3%を大きく上回る伸びを示したことなどが、追加利上げの期待を強めている状況。

今月3日に発表されたNZ第3四半期雇用統計では、失業率が第2四半期の4.0%から3.4%へ大幅低下(事前予想3.9%)、雇用者数増減は前期比で+2.0%と第2四半期の+1.1%(速報時点では+1.0%)と大きく伸びが加速(事前予想+0.4%)と、かなり強い数字を示しており、利上げ期待を支えています。

今月3日のNZ中銀金融安定報告で、オア総裁はNZの金融システムについて、新型コロナの感染拡大にもかかわらず強靭さを保っていると強調。インフレ圧力の根強さとインフレ期待の拡大により急激な金融の引き締めが起きる可能性を警告しました。

これらの状況から、24日の中銀理事会では0.25%の追加利上げ(0.5%→0.75%)がほぼ確実視されています。事前の専門家予想も利上げで一致しています。

注目はオア総裁の会見などでの今後の姿勢。市場では来年末までに政策金利が1.50%に達するという見方が広がっています。今後も引き締め姿勢を継続してくるのかどうか。引き締め姿勢が強調されればNZドル高の動きにつながると期待されます。

主要通貨がらみの注目材料としては、23日に発表される11月の欧州、英国、米国の購買担当者景気指数(PMI)速報値があります。

注目はここきてデルタ変異株による新型コロナの感染拡大が止まらない欧州と、水

準的にはかなり高いとはいえ、一応の落ち着きを見せている米国との景況感の差です。

ユーロ圏、特にドイツはここきて感染拡大が深刻。直近で1日当たり6.8万人という日が見られ、7日間平均でも4.3万人と、過去最大の感染者数となっています。米国は9月にデルタ変異株による感染拡大のピークを迎え、7日間平均で17.5万人まで拡大していましたが、25万人に乗った1月のピーク時には届かず、直近では9万人前後に落ち着いています。ドイツと比べて倍以上ではありますが、人口は4倍近いため、ドイツの状況の深刻さが意識されます。

こうした状況もあり、11月のドイツPMIは製造業が57.0、非製造業が52.0と共に前回から悪化見込み。ユーロ圏全体でも製造業が57.5、非製造業が54.1と前回から悪化見込みとなっています。

感染者数拡大は落ち着くも、減りもせず、4万人前後の高いところで安定している英国も、製造業が57.4、非製造業が58.2と前回から悪化見込み。こちらは、新型コロナの影響もさることながら、物価が急激に上昇していることが警戒感につながっていると見られます。

一方米国は製造業、非税増業共に59.0と、前回から強まるという期待に。欧州と米国の対照的な状況が印象的となっています。

新型コロナの影響を受けやすい非製造業部門で、ドイツやユーロ圏の数字が予想を超えて弱くなっている可能性もあり、要注意。

結果次第ではユーロドルの大きな下げにつながる可能性があります。

山岡和雅 | bu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社（株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド）が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。